

皆様おはようございます。台風が近づいています。月曜日の夜から火曜日にかけて、ぜひお気を付けください。

いよいよ9月となり、大分しのぎやすくなってまいりました。コロナ感染症の危険がまだありますが、お互いの健康のため、祈り合いながら進みましょう。

さて黙示録3章ですが、主イエス様が七つの教会に宛てた手紙の、最後の教会に宛てた内容に入りました。

14 ラオデキヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『アアメンたる者、忠実な、まことの証人、神に造られたものの根源であるかたが、次のように言われる。

アアメンたる者。これはどういう意味でしょうか。そもそも「アーメン」という言葉の意味を考えます。旧約聖書の言語へブライ語でも、新約聖書の原語ギリシャ語でも「アーメン」です。アーメンこれは、「本当に、まさしくその通りです、もしくはその通りになりますように」という意味です。「ハレルヤ」すなわち「主の御名をほめたたえよ」という言葉とともに、世界共通語です。ハレルヤ、アーメン、コカ・コーラなどという冗談と共に、どれだけこの言葉が世界で使われているかが語られます。

アーメンという言葉がただ単に、「はい」とか、「そうです」という意味だけではなく、「本当に、心の底からその通りです」という意味であることは大切なことだと思います。そういう意味ではアーメンもハレルヤも、私たちが神様に向き合った時の言葉なのでしょう。神様に向かって、アーメン、誠に、誠に、深く心の底から本当にその通りですと、心の底から相槌を打つ。そしてハレルヤ、主の御名を賛美せよ、称えるべきかな、主と賛美する。この私たちの心からのまことの神様への同意と賛美、この神様への応答が大切なんだなあと思います。

それでは「アアメンたる者」とはどういうことなのでしょう。これは誠に誠にその通り、誠なるお方という意味であり、次の言葉にもつながります。

「忠実な、まことの証人。」

いつも忠実で変わることなく、頼れる存在。信頼できる存在。そのような証人。私たちはついぞその日の気分に従って生きる場所があります。今日は気分が乗らないから主の証しを控えよう。今日はクリスチャンとしての生き方には一休みして、自分の思い通りにやっで行こう。そう思ったりするものですが、主はいつも「忠実な証人」です。忠実で誠実で、信仰深く、正確で貞節、変わるところがなく、あきらめず、追い求め続ける、首尾一貫している。まさに頼れるお方、頼るにふさわしいお方です。そしてまことの証人。本当の、純正な、筋金の通った、これまた頼る、信頼することのできる、そういう意味でまことの証人。忠実でまことであるという、この二つの誠実さと忠実さを兼ね備え、お頼り申し上げますに十分に足る、足場をがっちりと支えて下さるお方。アーメン、いつも、まさにその通り、心の底

からそういう忠実でまことな、真実なお方。そしてその心は、証に向かっている。その素晴らしさを伝えるためにいつも私たちの方に向かって熱心に証しのわざをして下さっておられるお方。

2 テモテ 4:2 御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。

4:3 人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、

4:4 そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう。

4:5 しかし、あなたは、何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。

4:6 わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。

4:7 わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。

4:8 今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。

「神に造られたものの根源であるかた」

神に作られたもの、すなわち被造物の根源。源。起源。万物を造られたお方。それが私たちの主イエス・キリストです。

万物はこの方によって造られ、本当にその通り、誠に、心の底から誠に、誠に、偽りも矛盾もなく誠であるお方。忠実な、まことの証人がこう書き送られる。

これは、神様が力説して私たちに語りかけようとしておられるということがありありと書き表されています。他の所がどうしてもいいということでは決してありませんが、何度も何度も、アーメン、誠に、忠実でまことの証人、万物の根源である私という語りかけは、並大抵のものではないように感じます。とても落ち着きのない、思いの定まらない、あぶなっかしい、走り回って言うことに耳を傾けないような子供をつかんで立ち止まらせて、じっと目を見つめて、「本当に、本当にあなたにとって大切な私があなたに信頼できることを話しするから、よくよく聞いておくれ」と語りかけるような雰囲気を感じます。

15 わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。

16 このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。

そして語りかけられたのは、「生ぬるい！」という言葉でした。

冷たいのなら夏の日に快適である。熱いのなら冬の日に体を温め、調理にも使える。しか

生ぬるいものは何の役にも立たない！このような主のお声が聞こえてきそうです。

生ぬるいとは、「熱がない」ということです。情熱がないのです。熱っぽくないのです。冷淡なのです。しかしキリリと冷えた爽快な飲み物なのではなくて、ただただ生ぬるくて気持ちが悪いです。生ぬるいとは、煮え切らないのです。熱いか冷たいか、右か左か、前か後かではなくて、どっちつかずなのです。何を考えているか分からないのです。煮え切らない。山の上に行きますと、空気が薄くなると言いますか、気圧が低くなります。そうすると水の蒸発が早くなり、沸騰する温度が低くなります。富士山の頂上では88℃でお湯が沸きます。ヒマラヤのエベレストに行けば70℃そこそこで沸騰しますが、それは70℃のお湯ではありませんから、どんなに似ても芯が残ってしまいます。グラグラと沸かしても沸かしても、地上からしたら熱が足りないのです。そこで圧力なべを使います。

生ぬるい、頑張っただけでシャカリキになっているように見えはするのですが、熱がなくて煮え切らないのです。そんな使い物にならない中途半端な水は、口の中に入っても、ペッと吐き出されてしまいます。思いを鮮明にして、アーメンしかり、心の底からそうです。本当に、本当にそう思いますと、ある時ははっきりと舵を右に、ある時は左にと、信仰の確信に立って、自分の意思を鮮明に発揮して行動をしていくのです。「忠実な、まことの証人。」として、迫力をもって全速力で走るのです。生ぬるい人はあっちにフラフラ、こっちにフラフラして、言い訳ばかりで何もしようとはしません。毒にも薬にもならず、責任を回避してさまようばかりなのです。

ラオデキヤは大変に裕福な町でした。金融業が栄えていました。先週のヒラデルヒヤでも起こったように、ラオデキヤでも紀元60-61に大地震で町が壊れた時にも、こちらは皇帝の援助を受けなくても再建することが出来ました。

この町には薬学の学校があり、目薬は世界的に輸出されていました。羊毛も有名で、黒い光沢のある羊毛が取れて、毛織物でも有名でした。

そんな町なのに、そんな町だから、人々は商売に気を取られて信仰のことはおろそかになっていました。生ぬるかったのです。

17 あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。

18 そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買ひなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買ひなさい。

主はこの町の教会に宛てて、富む者となれ、裸の恥をさらさずに衣を身につけなさい、目薬

を買いなさいと言われましたが、それは金融業、毛織物業、目薬の世界的製造地に向けて語られた言葉だったのでした。

金融業でいくら富んでいても、富んではないとされ、服をどんなに作っても衣を買い、目薬をどんなに遠くに国に売ろうとも、私から目薬を買いなさいと主は彼らに言われるのです。

ここで言う「買う」という言葉は、「買う」という意味と共に、「贖う」や「身代金を払う」という意味があります。品物を受けるために私たちは対価としてお金を支払いますが、その代金によってもものを贖う、またはその代金を身代金として支払い、何かを解放されて手にするというのも買うという言葉の意味に含まれるという考えがあります。何かを犠牲にして、何か尊いものを結果として手に入れる、価値あるものを、贖いや身代金を渡すことによって引き出す、そのようにして、心を込めて、その本当に価値あるものをあなたの持てる者によって、身代金として贖いを得よ、それくらい私があるあなたに与える欣也衣や目薬は値高いものだからと主は語られます。

17 あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。

自分は富んでいる、豊かになった、何の不自由もない。そういい得ることは人生の成功とも言えます。しかしその富み、豊かさ、欠乏の無さ、それによって惨めな、不遇な状態から脱したかと思えば実は全然そうではなかったという現実がここにはあるのです。

「あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない」

みじめで、非常に不幸で、哀れ、情けない、粗末でみすぼらしい、かわいそうな、情けない、嘆かわしい、あさましい、劣って痛ましい、癒しむべき、話にならない、お粗末な状態。そして貧しく、目が見えず、裸である状態。どうしてそんなにもひどい有様になってしまったのでしょうか。

「自分は富んでいる、豊かになった、何の不自由もない」  
こういう時に私たちは神様に感謝をささげることが忘れ、あたかも自分の力でその良き結果を手に入れたかのように錯覚するのではないのでしょうか。

申命記 8:2 あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、

あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。

8:3 それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに知らせるためであった。

8:4 この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。

8:5 あなたはまた人がその子を訓練するように、あなたの神、主もあなたを訓練されることを心にとめなければならない。

8:6 あなたの神、主の命令を守り、その道に歩いて、彼を恐れなければならない。

8:12 あなたは食べて飽き、麗しい家を建てて住み、

8:13 また牛や羊がふえ、金銀が増し、持ち物がみな増し加わるとき、

8:14 おそらく心にたかぶり、あなたの神、主を忘れるであろう。主はあなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出し、

8:15 あなたを導いて、あの大きな恐ろしい荒野、すなわち火のへびや、さそりがいて、水のない、かわいた地を通り、あなたのために堅い岩から水を出し、

8:16 先祖たちも知らなかったマナを荒野であなたに食べさせられた。それはあなたを苦しめ、あなたを試みて、ついにはあなたをさいわいにするためであった。

8:17 あなたは心のうちに『自分の力と自分の手の働きで、わたしはこの富を得た』とってはならない。

8:18 あなたはあなたの神、主を覚えなければならない。主はあなたの先祖たちに誓われた契約を今日のように行うために、あなたに富を得る力を与えられるからである。

「実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない」というような状態ではありませんように。

19 すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。

20 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。

主は私たちが哀れな状態のままに捨てておかれる方ではなくて、私たちに目薬を与えて目を開かせ、自らの状態に気づき、成長が出来るようにと導いてくださいます。罪にまみれた黒い服の上から、裸の自分の醜い裸の恥をさらす私たちに輝く白い義の衣、主イエス様の贖いによる輝く衣を着せて下さいます。朽ちることのない金を、価値ある生き方を、宝を天に積む生き方を教えて下さいます。主からそれらを頂くとき、私たちは本当に豊かになります。私たちの持てるものを、その本当に良き主の手からいただく者に変えていただくためにも

てるものをささげ、祈りをささげ、感謝と証しの奉仕をささげ、神様から本当に価値あるものを買わせていただくとき、私たちは豊かな者となります。

神様は私たちを愛するがゆえに私たちの真実の、誤りのある姿をありのままに知らせ、そして私たちを訓練し、指図を与え、教えて下さいます。熱心になって悔い改めなさい。熱心に、熱狂的に、真剣に、まじめに、誠実に、ひたすらに悔い改め、心を入れ替え、罪から向き直り、人生の行く道を変更して主に従う、それは惨めなことではありません。挫折でも失敗でもありません。私たちとどうしようもなく挫折し、失敗し、道を外れ、惨めであるから悔い改めるのです。そうすれば私たちは成長を遂げることが出来ます。豊かになり、輝く衣を着て、目が見開くのです。

私たちはいつも間にか主を、私たちの贖い主を、私たちのかけがいのない主を家の中から追い出して戸の外にひとり立たせていたのです。戸口の前に走り寄り、戸をたたき続け、私地に帰ってきなさいと語られる主のみ声に答えて心の扉を開き、主を受け入れるなら、私たちは主と共に祝福に預かり、共に語り共に食し、命と豊かな交わりのうちに進み続けることが出来るのです。

「すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。」(ヘブル 12:11)

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。神様、あなたは私たち全てをこよなく愛して、御子イエスキリストの尊い犠牲によって私たちに赦しと命を与えて下さいました。時に私たちはその愛を容易に忘れ、神様にそっぽを向いて勝手気ままに進もうとします。自らを王として、神様を自らに従わせようとする事さえあります。惨めであさましい、お話にならない事です。それでもあなたは私たちの心の扉をたたき、私たちを目覚めさせ、主に向き直り、主を心の中心にお迎えして

進めるよう、私たちと共にいて祝福と教えを下さいますから、本当にありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン